「ISPSハンダマッチプレー選手権」

8～9月、千葉・浜野GC

対費用効果より社会貢献―半田会長実現

ゴルフの原点 マッチプレーの火 絶やさない

半田晴久氏(66)が会長を務める国際スポーツ振興協会（ISPS）が日本のゴルフ界に新風を巻き起こす。昨年まで開催した「ISPSハンダグローバルカップ」を今年からゴルフの原点といわれる「マッチプレー競技」へと変更し、名称も「ISPSハンダマッチプレー選手権」として新たな歴史の一歩を踏み出すのだ。8～9月に千葉・浜野ゴルフクラブで行われる大会の概要がこのほど、都内で行われた会見で発表され、半田会長をはじめ、出場するISPS所属のプロゴルファー・谷原秀人(38)や藤本佳則(27)らが意気込みを語った。

14年間行われず

ゴルフの原点回帰へ。半田会長はその経緯と真意を会見で明かした。発端は、昨年、「ネスレインビテーショナル日本プロゴルフマッチプレー選手権レクサス杯」をBSでテレビ観戦した時のこと。スポンサーであるネスレ日本・高岡浩三社長の言葉に「インスパイアされた」という。

「最後に高岡さんが『マッチプレーの火を絶やさない』とおっしゃったんです。本当にそうだなと思いましてね。その言葉に私はインスパイアされました」。そう言い切った半田会長は返す刀で、同大会を制した時松隆光が、JGTO（日本ゴルフツアー機構）の賞金ランク上位に入らず、シード権もないといった実情を受けて「せっかくの高岡さんの気持ちが十分な形になっていないんじゃないか、残念だなと思いまして」と激白。ISPSでマッチプレーをやろうという発想に至った背景を明かした。

半田会長は「高岡さんがやるまで、なぜ14年間もマッチプレーをやらなかったのか」とJGTOに問うた。その大きな理由は「マッチプレーはいつ終わるか分からないので、テレビ放映の枠にはまりにくい」ということだった。そこで、半田会長は決意した。

「テレビ放映と観客動員の2つを諦めました。そうすれば、JGTOだって本当はやりたいマッチプレーの火をともせる。普通のスポンサーは株式会社で営利追求型ですから、対費用効果を考えますが、ISPSは一般社団法人なので社会貢献を第一に追求します。ネスレとISPSでマッチプレーが国内に2大会あれば、ゴルフ界も活性化する。グローバルに活躍できる場になる。マッチプレーはゴルフの原点なのですから、ぜひやりましょうと」。半田会長は日本男子ゴルフ界の現状打破に燃えていた。

TV放送実現

その思いに応えるかのごとく、テレビ放映に追い風が吹いた。マッチプレーならではの切り口での画期的な放送形態がBSイレブンで実現するのだ。

共催するJGTOの大西久光副会長がその放送形態の利点について実例を挙げながら語った。

「先般（今年3月）、谷原選手が世界マッチプレー（準決勝）でダスティン・ジョンソンとすごい戦いをしたわけですが、テレビの同時中継ではワンマッチを続けて見れず、切れ切れになる。対戦する2人のメンタルな心の流れの全体が見られない。そこで今回は、最後の2、3日間の中で6ゲームをピックアップして、それぞれを60分番組としてフルに放送していただくことになった。テニスの錦織圭選手の試合でも、結果が出ていて録画とは分かっていても、ハラハラする場面を『ここがキーポイントだったな』という見方で楽しめる。ゴルフでも谷原選手とジョンソンの白熱した18ホールは勝負が分かっていても見たい。そういう興味を追求していきたい」

このように熱弁を振るった大西副会長に対し、半田会長は「大西さん、80歳になられましたけど、頭はシャープで説得力はあるし、行動力が早くて斬新な、いまだかつてなかったものをやるスピリットがある。私と小学校が同じなんですが、大西さんのおかげで前人未到の新しい枠組みができた」と絶賛した。

賞金2億1000万円

さらに半田会長は「賞金総額も大きくしてゴルファーを刺激し、世界で戦える人材を育てたい」と明言。賞金総額を2億1000万円とした。その理由について「最初は3億円で考えていたが、最高額は2億円だということで、ちょっとだけ、1000万円だけ〝でべそ〟が出る形にした」と説明し、「それで選手の刺激になれば、ぼちぼちと上げていく。来年は『でべそ』の上の〝おでき〟が大きくなって2億2000万、再来年は2億3000万…」と、かゆいところに手が届く半田流の〝ニンジン作戦〟で出場選手たちを鼓舞した。

焦点は日本人選手の奮闘にある。半田会長は「昨年の『ハンダグローバルカップ』はベストテン中9人が外国人で、日本人は平塚哲二選手だけだった。世界の一流選手はマッチプレーもストロークプレーも両方強い。全部そろってないと世界で勝てないんだなと。そういう意味で、志ある人に今回は出ていただいた」と語り、その熱い視線を同席した谷原と藤本に投げかけた。

谷原は「半田会長、ありがとうございます。選手はこの大会をメインにして優勝を狙っていく金額だと思います。昨年、シードを落とした選手でも、ベスト4に入れば復活のチャンスがあるというめったにない大会ですし、優勝すれば賞金王も近づくので、みんな目の色を変えてくる大会じゃないかと思います」と感謝した。

さらに、谷原は「マッチプレーは全部で7回戦、相当な体力とメンタルが重要な大会ですので、これによって日本の選手たちがどんどん強くなっていくんじゃないかと思います」と意義を語った。そして、「これまで2年連続予選落ちだったのですが、今回は（シード）で予選落ちはないので思い切って最後まで戦って行ければと思います。楽しみです」と力強く宣言した。

半田会長は谷原に対して「（初戦の3回戦で）負けても200万円が入りますので、気楽に頑張っていただきたい」と会場の笑いを誘い、「谷原選手は38歳になっても新しいことをやっている。『俺はこの年だから』ということはなく、何かをつかみ取って次に大きくジャンプするという、そのスピリッツの素晴らしさを体現している」と絶賛した。

藤本下克上Vだ

一方、藤本は「まず1回戦、2回戦をしっかり勝って決勝に行きたい。半田会長にはお世話になっていますし、恩返しじゃないですけど、いい状態で臨んで頑張っていきたい」と〝ノーシードからの〝下克上V〟を誓った。

会見に出席した（左から）谷原秀人、ISPS半田会長、JGTO大西副会長、藤本佳則＝東京・赤坂

谷原「優勝すれば賞金王近づく みんな目の色を変えてくる」

ISPS半田晴久会長

大西JGTO副会長「日本男子ゴルフ活性化へ」

JGTOの大西副会長は「96選手の1回戦から始まって全部で106マッチあるわけですけど、こういう大会は私が知る範囲では世界でも前例がない。ストロークプレーとマッチプレーの18ホールは似て非なるところがある。勝負弱い人はマッチプレーで勝てない。JGTOの青木功会長は選手たちに『勝負強くなれ』とよく言われていますが、若い選手にとってマッチプレーを経験してもらうことが非常に大事ではないかと思う」と力説した。

さらに大西副会長は「ストロークプレーだと5㍍くらいのパットを2パットでいっても大丈夫じゃないかというところで、マッチプレーでは相手がバーディーを取ったら（1打で）入れなきゃしょうがない。ここぞという時に入れる力があるかということは、世界に行ったときに1番必要だと感じている。日本の男子ゴルフの活性化に結びつけたい。私自身もわくわくしている」と期待を込めた。

3回戦から出場するシード選手の池田勇太　㊦熱戦の舞台は浜野ゴルフクラブ

池田、遼、片山、優作ら 主な出場日本人選手

日本人シード選手は谷原のほか、池田勇太、小平智、片岡大育、今平周吾で、3回戦から出場。主なノーシード選手では石川遼が1回戦で塩見好輝と対戦。片山晋呉は井上信、宮里優作は松原大輔と初戦で激突。会見に出席した藤本は上井邦裕と顔を合わせる。

1回戦は96選手による48マッチ、2回戦は48選手の24マッチとなり、3回戦はシード8選手を加えた32選手による16マッチ…という具合にトーナメント形式で進行していく。

ゴルフのマッチプレーとは

対戦相手同士が1対1で各ホールごとの勝敗を競い、勝利したホール数の多い方が勝つ形式。そしてトーナメント形式で勝ち上がっていく。対して、フィールド全員を相手にトータルスコアで競うのがストロークプレー。現在は、組み合わせによる不運などのないストロークプレーが主流だが、ゴルフの聖地スコットランドで伝承されてきたマッチプレーは〝ゴルフの原点〟として今も受け継がれている。

WHO'S WHO

半田晴久（はんだ・はるひさ）1951年3月18日生まれの66歳。兵庫県西宮市出身。芸術活動や宗教家としては深見東州（ふかみ・とうしゅう）の通名を使い、劇団団長や文芸活動では戸渡阿見（ととあみ）のペンネームを使用。実業家、福祉・慈善活動家、作曲家、能楽師、詩人、書家、さらにはオペラやロック、ジャズ、演歌、謡曲、アニソンなど幅広いレパートリーを誇る歌手など、多種多様なジャンルでマルチな才能を発揮。スポーツ分野においては「日本のブラインドゴルフの父」と呼ばれ、日本ブラインドゴルフ振興協会（JBGA）名誉会長を務める。06年にISPSを設立。ゴルフでは年間65試合以上を主催大会として開催。17年からサッカーJ2東京ヴェルディとメーンコーポレートパートナー契約を締結した。また、スイス時計のオーナー社長でもある。

ISPSハンダマッチプレー選手権大会概要

【主催】一般社団法人国際スポーツ振興協会（ISPS）
【共催】一般社団法人日本ゴルフツアー機構（JGTO）
【開催日程】8月1日（1回戦）、同2日（2回戦）、9月6日（3回戦）、同7日（4回戦）、同8日（5回戦）、同9日（準決勝、5位タイ・7位タイ決定戦）、同10日（優勝決定戦、3位決定戦）
【コース】浜野ゴルフクラブ（千葉県市原市）7217㍎、パー72
【賞金】総額2億1000万円＝優勝5000万円、2位2500万円、3位1400万円、4位1000万円、5位タイ850万円、7位タイ700万円、4回戦敗退者450万円、3回戦敗退者200万円、2回戦敗退者50万円
【放送】BSイレブンで10月以降、5回戦～優勝決定戦までの全10マッチのうちベストマッチ6本を全ホール収録放送。ネット中継では「FRESH!」でライブ配信。
【チケット】前売り券（5枚つづり各日共通）6000円（税込み）、浜野ゴルフクラブで販売。インターネットでは7月中旬から発売開始予定で、8月31日までゴルフパーク（http://golfpark.jp）で購入できる。当日券は各日2000円（税込み）、ギャラリーゲートで発売。いずれも9月6日の3回戦～同10日の優勝決定戦まで。1、2回戦は発売なしで一般非公開。